

# 地方自治体といかに 連携するか

～地域振興への次なる取組み～

首都圏と地域との連携推進

まち実践社

代表 村橋 保春

## 地域間連携の要としての東京

トラベルミステリーは地域の景勝や特産品などを話にうまく織り込み、ちよつとした旅行気分を味わえる。話題を増やそうと作家は複数の地域で連続事件を起こす。地域間の移動は時間がかかり、容疑者には強いアライがある。アライ崩しによく使われるパターンがある。2地域間を移動するに当たり、容疑者は鉄道や飛行機でいったん東京に出て、再度東京から目的の地域に向く。物理的、時間的距離はあるが便数が圧倒的に多い。名探偵は時刻表を駆使して容疑者を追い込める。読者は旅情と謎解きの面白さを楽しみ本を閉じる。

東京は日本全国の地方と便利に繋がる。東京は政治、経済、文化の中心的役割を果たし、存在感是他を圧倒する。東京は地方からヒト、モノ、カネ、情報といった重要な要素を吸い取るストーリー効果で巨大化し、地方の活躍に立ちはだかる悪の巨人

のように警えられる。しかし東京は日本の経済発展、生産性・効率性向上のために機能・権限集中の役割を担わされたにすぎない。

人口減少が進むと東京を頂点とし地方がこれを支えるヒエラルキーは構成できない。東京も地方と同じく日本を構成するフラットなネットワークの一員として活動することが求められる。ただし東京には充実した社会基盤があり、ネットワークの中でハブ機能としての地方間交流の要の役割を与えられる。地方創生において新しい東京のあり方が求められている。

### 自治体への貢献 — 目利き力

東京で信用組合はいかに活躍するか。新機軸を次々と打ち出す第一勧業信用組合新田理事長を訪問した。

手渡された広報誌『2015 第一勧業信用組合の現況』の表紙を見て驚く。写真のほとんどが豆まき、神輿など地域の祭事に参加しているものである。新

田理事長は地域の祭事に積極的に参加する。現場で区長や自治体幹部と一緒に、まさに自治体とのトップ会談となる。理事長は職員が積極的に地元祭事に参加し、組合全体として地域や自治体と深く交流することを推し進める。

新田理事長は地域社会にとって一番身近な金融機関として「地域とのふれあい及び地域への貢献」の実施を目指す。根底にあるのは信用組合の理念「相互扶助」である。理事長は株式会社金融機関で重責を担ってきた。信用組合のあり方を複眼的に捉え、信用組合はその理念に基づき地域社会においてよりふさわしい役割を果たすことができるかと語る。株式会社金融機関は地域を対峙するYOUと捉え収益を上げる対象と見做し、狩猟的行動を起こす。協同組織金融機関である信用組合は地域の一員として地域をWEとして捉え、ともに協働する農耕的行動をとる。信用組合を組織や融資規模に基づき序列つけて捉える

のではなく、相互扶助という理念に基づく金融活動の意義と役割を位置付けることが重要である。

自治体との関係について皮袋と酒に譬える。自治体は皮袋を作ることは得意であるが、中に酒を入れることに長けていない。自治体は現場を十分に理解していないため、現場をしつかりと把握している信用組合が補完する。信用組合の「目利き力」の発揮が求められる局面である。同組合は目利き力を重視し新たに事業戦略室を設け一層の実績向上に努めている。

## 創業のアクセラレータ ― 万全な支援体制

目利き力を使って創業支援を推進する。ほとんどの金融機関は融資判断を格付けと担保に頼り、保証協会に頼る。若者や女性が創業を志したとき、十分な格付けも担保も持ちえない。本来支援が必要な人たちにとって金融機関からの融資は期待できない。

地域をよくするためにチャレンジな創業者をしつかり応援する。自治体は創業による地域活性化を望み支援制度や支援施設を整備する。これは皮袋である。いかに創業を促し軌道に乗せるか。酒を入れる役割こそ第一勸業信用組合が担う。新田理事長は強く語る。

自治体との連携は非営利民間組織であり相互扶助の理念を掲げる信用組合がもつとも適合する。地域について同じ志を持つ異なる組織が協力し合うことで価値創造を導き出す。同組合が取り組む創業融資案件は非常に数が多い。組合職員が創業案件に一つひとついねいに取り組み、実績を積むことで目利き力を高める。「量と均一性」の金融業界にあつて、「質と多様性」に応じられる信用組合を目指す。真似される二流のプロではなく、定石を崩す名人を求める。新田理事長の求める先ははるかに高い。

第一勸業信用組合では創業支援制度を設けている。融資につ

いては「かんしん未来ローン」を、投資に関しては「かんしん未来ファンド」を、創業経営者間交流のための「かんしん未来くらぶ」を設けて創業者を支援する。今年4月には日本政策金融公庫と連携して協調融資商品「未来へのコラボ」の取り扱いを始めた。同組合は自ら創業のアクセラレータ(事業化の加速器)となつて若者や女性を応援する。

## 広がる信用組合ネットワーク

東京における信用組合は、東京自体を活性化するとともに、地方の連携の要となり地方活性化を支援する二つの役割を持っている。

新田理事長は地方連携にも積極的であり、多くの信用組合と連携協力協定を締結している(協定締結信用組合…塩沢、糸魚川、北央、秋田県、いわき、君津の6信用組合 4月現在)。同組合本支店のフロアを特産品販売や情報発信の場として提供する。本店2階には地域連携オ

フィスを設け信用組合関係者に東京の拠点として自由に活用してもらえよう開放する。豪華な調度を整え、東京出張のような設置になつている。

取材中終始にこやかな新田理事長が一度だけ険しい顔をされた。地域連携オフィスを地方の信用組合の東京での求人活動に利用することについて、新人採用を競い合うライバルに塩を送るようだと自分が感想を述べ、これに不快の意を示された。信用組合同士はライバルではない。理事長は第一勸業信用組合だけの繁栄を望むのではなく、信用組合全体の発展を目指している。理事長の本気を知った。

相互扶助の理念を掲げ非営利協同組合である信用組合に対して時代の要請はますます高まる。信用組合はこれにしっかりと応える。そのため東京に位置する第一勸業信用組合は地域と地域を結ぶハブ機能の役割を担う。新田理事長は弛まらず行動し続けることで信用組合関係者に強いメッセージを發している。